

品名	時代	法量	目録番号・登録番号
饗饗文平底爵	殷前期	高12.3	1-27・銅20
饗饗文平底罍	殷後期	高32.5	1-41・銅23
饗饗文爵 2字(象形)「父丁」	殷後期	高19.0	1-30・銅13
饗饗文觚「史」	殷後期	高31.0	1-42・銅11
饗饗文鉦 銘1字(象形)	殷後期	高16.3	1-52・銅24
饗饗直文料	殷後期	長24.0	1-47・銅27
饗饗文料「己」	殷後期	長18.3	1-48・銅47
嵌石 戚 銘1字(象形)	殷後期	高12.8	3-232・殷3
矛	殷後期	長26.0	3-236・殷1
戈	殷後期	長21.5	3-214・殷9
饗饗文鈴	殷～西周	高6.5	8-13・鈴13C
饗饗文鈴	殷～西周	高10.6	8-16・鈴14B
直文斧	殷後期	長18.2	3-235・殷18
鈴飾短劍	殷後期(オルドス)	長19.5	3-289・鈴111
獸頭飾刀子	殷後期(オルドス)～	長17.4	3-284・殷1183
獸頭飾刀子	殷後期(オルドス)～	長17.0	3-279・殷1181
蟬文弣	殷後期	長41.0	3-309・鈴3
星形文弣	殷後期	長33.6	3-310・鈴4
饗饗文尊 1字(象形)「父辛」	西周前期	高25.0	1-18・銅32
井文鬲	西周前期	高17.4	1-10・銅35
直文鬲	西周中期	高10.0	1-11・銅36
雷文罍 銘は後刻	西周前期	高14.4	1-45・銅10
戈	西周前期	長21.2	3-219・殷10
獸頭形轄 1対	西周	長(各)10.0	3-319・飾35
鑿	西周	高17.3	3-323・鈴5
劍(けい 卮 し)	春秋	長径16.0	1-17・銅67
蟠螭文鼎	春秋	高17.6	1-9・銅48
劍 銘2字(後刻)	春秋後期	長33.3	3-286・殷1124
鋸鎌	春秋	長21.6	3-190・殷1155
魚形佩 5点	春秋	長10.2など	3-429・考609
円珠文鈴	戦国	高14.5	8-37・鈴16
矛	戦国	長19.8	3-238・殷1123
矛	戦国	長30.6	3-239・殷1147
刀子	春秋～前漢(オルドス)	長19.8	3-267・殷1169
鈴飾觶	戦国～前漢(オルドス)	長17.7	3-315・鈴113
羚羊形鈴	戦国～前漢(オルドス)	高6.2	8-83・鈴17
鍍金 牛文帯金具	前漢(オルドス)	5.8×4.2	3-363・飾1005
鼎「苟少夫銅鼎容一石重四十三斤」	前漢	高33.0	1-54・銅52
鼎 (銘は後刻)	漢	高20.4	1-53・銅51
甑 (彩色の残痕あり)	漢	径15.0	1-57・銅58

品名	時代	法量	目録番号・登録番号
鍾「義陽是」(字体に疑問あり)	前漢	高45.3	1-59・銅56
刻文鍾 (銘は後刻か)	後漢	高36.6	1-62・銅75
鏞尊	前漢	高17.5	1-63・銅57
鍍金銀彩画 雲氣鳳凰文温酒尊	前漢	高21.4	1-64・銅68
耳杯	漢	長径5.0	3-467・考549
鍍金 耳杯「御」	漢～東晋	長径8.0	3-466・考548
鍍金銀彩画 雲氣文盃	前漢	径16.2	1-66・銅59
盃「章和二年堂狼造作」	後漢 A.D.88年	径46.0	1-67・銅60
盃「永元三年堂狼造」	後漢 A.D.91年	径32.5	1-68・銅61
盃「永初元年堂狼朱提造」	後漢 A.D.107年	径38.0	1-69・銅62
羊文盃「周氏/建安二年八月造作」	後漢 A.D.197年	径33.6	1-70・銅63
双魚文盃「大吉宜用富貴陽遂」	後漢	径37.0	1-71・銅64
鳳魚文盃「君壽至三公」	後漢	径36.0	1-72・銅65
双魚文盃「長宜子孫」	後漢	径33.0	1-73・銅66a
双魚文盃「長宜子孫」	後漢	径36.1	1-74・銅66b
双魚文盃「長宜子孫」	後漢	径36.0	1-75・銅66c
轆轤灯	前漢	長13.5	3-482・考501
神獸形香炉	後漢	高9.0	3-483・考521
龍把熨斗	後漢	長30.4	1-78・銅71
鷄頭形杖頭	前漢	高7.2	3-533・考515
鳩形杖頭	漢	高8.1	3-534・考516
鍍金透彫 獸文刷子頭	漢	高8.7	3-451・飾36
鍍金 蚕 6点	漢	長6.8など	3-485,486・考566
鐸形鈴	秦～前漢	高4.5	8-46・鈴246
斜格子珠文鈴	秦～前漢	高3.6	8-39・鈴216
斜格子珠文鈴	秦～前漢	高3.0	8-39・鈴219
透彫菱形文香炉	三国～晋	高10.2	1-77・銅69
獸把魁 (銘は後刻)	三国～晋	口径20.0	1-65・銅72
鏞斗	三国～晋	長33.5	1-79・銅70
盃(あるいは鍋)「大吉羊宜用」	三国～南北朝	径20.5	銅101
獸面唐草文六鈴杏葉	南北朝(北方)	高7.3	3-437・鈴114
獸面パルメット文六鈴杏葉	南北朝(北方)	高7.2	3-435・鈴116
匙	南北朝	長8.5	3-449・飾1018
響銅 毛抜付き刀子	南北朝～唐	長12.7	3-455・飾1031-2
鍍金 風鐸 1対「伽耶度毗莎訶」、	隋～唐初期	高(各)16.0	8-67・鈴21
	隋～唐初期	径23.7	1-76・銅76
響銅 盃	唐	長40.5	19-54・経78
響銅 鵲尾形柄香炉	唐	高19.5	3-475・考520
響銅 王子形水瓶	唐	高7.6	1-56・銅54
響銅 弦文鼎	唐	高3.8	3-463・考638
鍍金銀 雁文印盒	唐	高6.7	3-465・飾49
鍍金 脚杯	唐		

品名 時代 法量 目録番号・登録番号

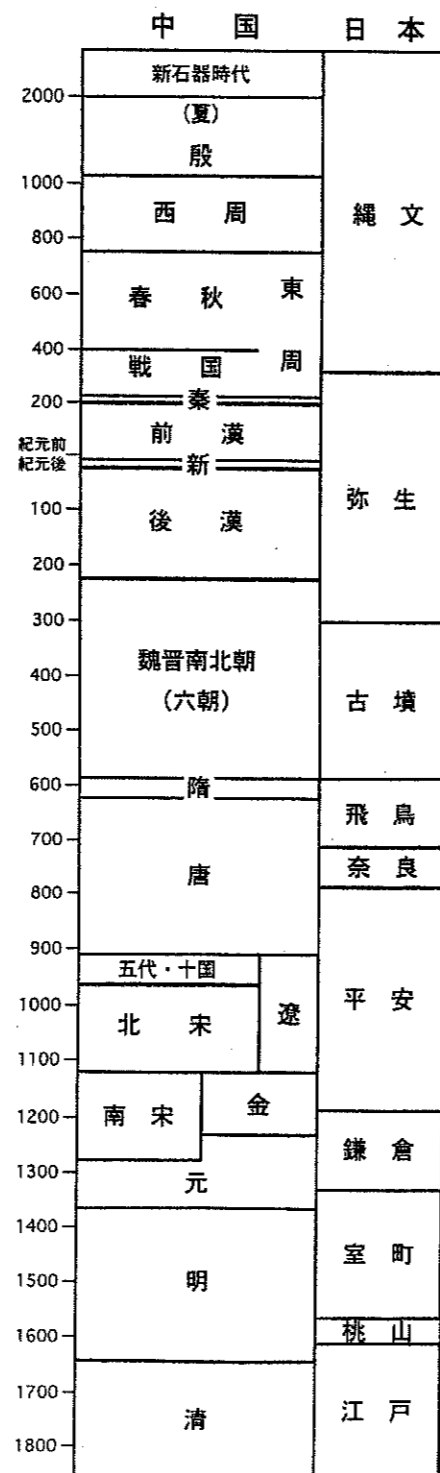
八万四千塔 「吳越国王錢弘俶敬造八万四千宝塔乙卯歲記」 「乙」  
 五代・吳越(顯徳2年 A.D.955) 高15.1 19-47・考610  
 鍍金 童子犀文帯金具 唐晩期～五代 4.1×4.4 3-366・飾1006  
 鍍金 獅子文盒 五代 幅4.8 3-471・考517  
 着彩 棋子 31点1組 宋 径3.2など 3-459・考621

中国では、およそ 5000 年前、新石器時代の末期に、溶かした青銅（銅と錫と鉛の合金）を鑄型に流し込んで器具を造る技術が発明されていました。殷時代には武器や祭祀のための器具に応用され、やがて生活用具や貨幣にも青銅が利用されるようになります。鋳物を探索し、精錬、鑄型の製作、鑄造という工程は古代初期の先端技術であり、これを駆使できるか否かによって国家の存亡にかかわることもありました。

今回は黒川古文化研究所の所蔵品から、青銅器製作の技術の発達や器具の形式と機能の変遷を明らかにする青銅器約 70 点を選び、時代を追って陳列いたします。

この機会に中国文化の高度な技法や、青銅器の厳格な美しさをご賞玩ください。

〈時代区分年表〉



第 8 8 回展観

中国の青銅器

—古代から近世へ—

2002.10.19. (土) ~11.17. (日)

(財) 黒川古文化研究所

〒662-0081 西宮市苦楽園三番町 14-50